



6月号
No.3-568



杉並区立馬橋小学校

～馬橋小のICT～

校長 小澤 伸生

紫陽花の花が色づき始めました。杉並区でもワクチン接種が始まったと聞きますが、まだまだ先の見えない日々が続く中、季節は変わらずに巡っていることを感じます。早く穏やかな日常が戻ることを切に祈ります。

先日は体育的行事「まばしんぴっく」を開催いたしました。保護者の皆様には感染症対策にご協力いただきながらのご参観、ありがとうございます。また来賓、地域の皆様には本年度も参観をご遠慮いただきました。この苦しい時期を乗り越え、次年度こそは本校の子供たちに大きな声援をいただけたらと思います。

「まばしんぴっく」もそうですが、新型コロナを契機として、学校行事、そして学校の日常にも大きく変わったものがたくさんあります。感染症流行以前から、杉並区の小中学校では、タブレットPCの導入を進めていましたが、政府のGIGAスクール構想を受けて、1人1台のタブレットPCを活用した「新しい学び」に向けた動きが加速しました。例えば、これまで杉並区のタブレットPCは、いざ休校となった場合、子供たちの健康や、ご家庭での学習状況の把握を目的として運用することが主眼でしたが、少しずつ条件が整いつつあり、子供たちが家に持ち帰って学習に活用する可能性も見えてきました。本校では状況を見ながら1学期中には、3年生以上の児童で、段階的にご自宅への持ち帰りを開始したいと思っています。

さて、一昨年度から実施されている小学校新学習指導要領では、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力として明確に位置づけられました。「児童の発達段階を考慮しながら、学習の中で、情報技術を効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えをまとめていく力を育成する。」ことを目指しています。

昨年度、そして現在のところ本年度も、地域保護者の皆様に授業をご覧いただく機会がなく、残念なのですが、本校ではタブレットPCに限らず、ビッグパッドや拡大投影機、デジタル教科書や電子黒板を使った授業は当たり前前の光景として毎日、各教室で繰り広げられています。

前出の情報活用能力の説明でもあるように、大切なのは情報機器を効果的に活用することです。ICTとは、Infomation and Communication Technologyの略ですので、児童がコンピュータとだけ向き合い、自己の世界から出られないような姿に終始している授業は好ましくありません。ICTの活用が効果的と考えられるのは、以下の様な3つの場面ではないでしょうか。

A 一斉学習

教師が電子黒板等を使い、大きな画像、音声、動画等で教材を提示し、児童の興味や関心を高める場面。

B 個別学習

デジタル教材等の活用により、児童が自らの疑問について調べたり、自分の考えや学習の成果を表現、制作したりする。もしくは個々に応じたスピードで習熟を図っている場面。

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板を使い、児童同士による意見の交換や発表を行い、お互い高め合っている場面。

ABC3つの場面が、教科の内容や目的に沿った授業の姿として現れるように、本校では今後も教員の研修を進めて参ります。保護者の皆様、地域の皆様にも、この感染症が落ち着いた暁には、馬橋のICTの学びをご覧いただけたらと思います。ご期待ください。